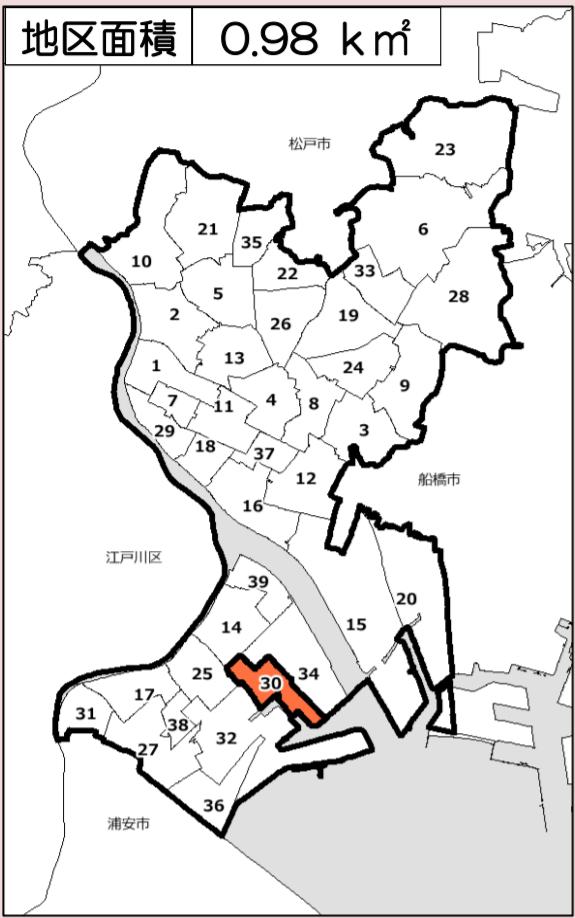


30 幸小学校区

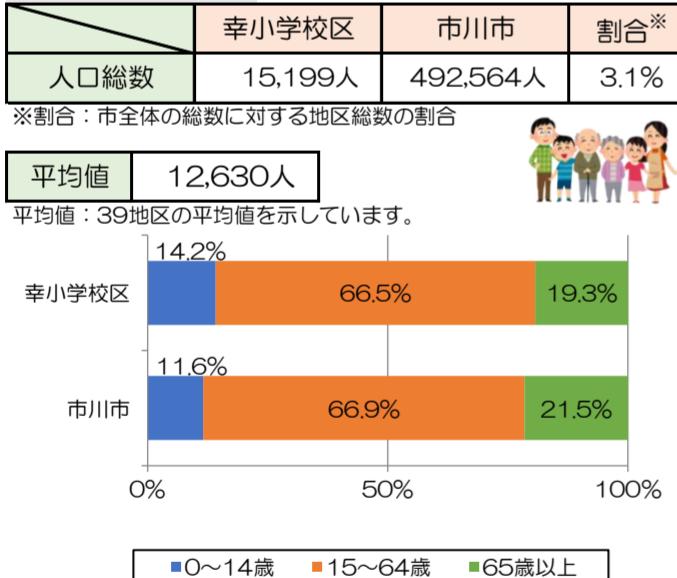
(1) 位置



(3) 人口・建物概況

◆人口

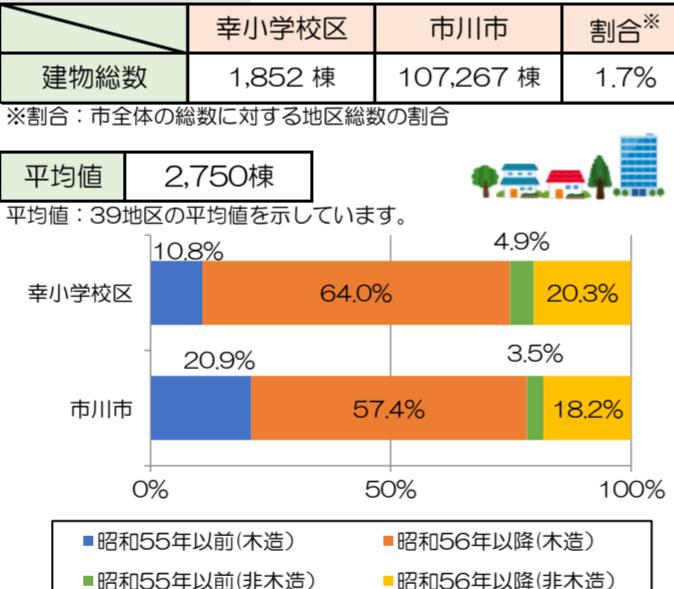
年齢別割合



地区的人口は、全地区の平均人口より多いです。市全体と比較すると0~14歳の割合がやや高く、若い世代がやや多い地区となっています。

◆建物

構造別割合



地区的建物は平均よりやや少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合が高いです。また、非木造建物がやや多い地区となっています。

(2) 地区概況

◆位置

幸小学校区は市の南部に位置し、地区の南側は東京湾に面しており、市川水路があります。

◆地形・土地利用

地形は、主に埋立地・盛土地で構成されており、平坦な低地となっています。

地区的北側は第一種中高層住居地域等の住宅地となっており、マンション等が多く建ち並んでいます。地区的南側は工業専用地域となっており、工場や倉庫が立地しています。

◆都市基盤

地区内の北側は、土地区画整理事業により整備されています。地区的南側には首都高速湾岸線及び湾岸道路が通っています。

また、地区内には、東西線行徳駅、妙典駅、京葉線市川塩浜駅行きの京成トランジットバスが通っています。

(4) 災害リスク評価

市川市防災カルテ < 幸小学校区 >

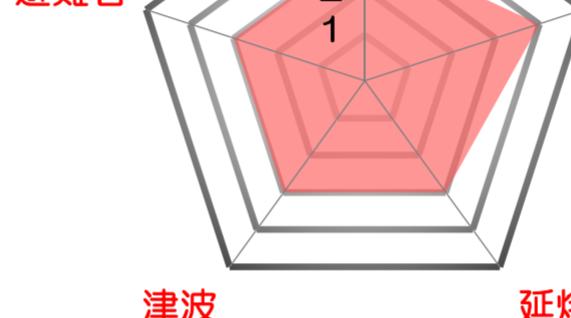
災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区的現況データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）

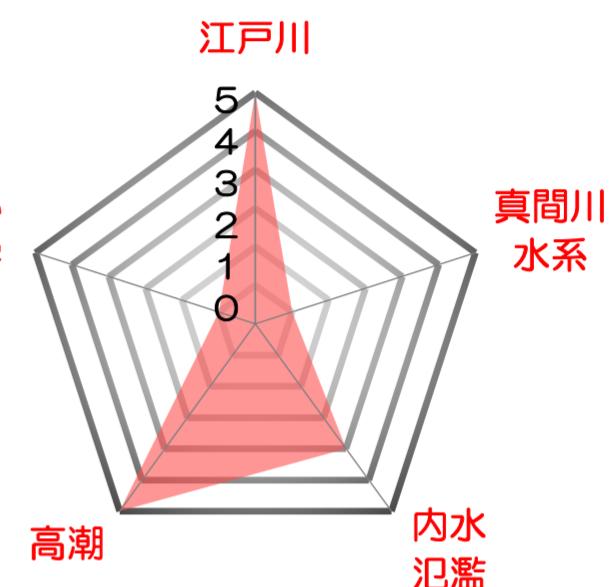
地震



避難者



風水害

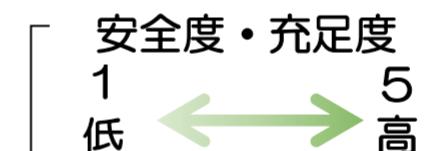


◆災害に対する強み（プラス面）

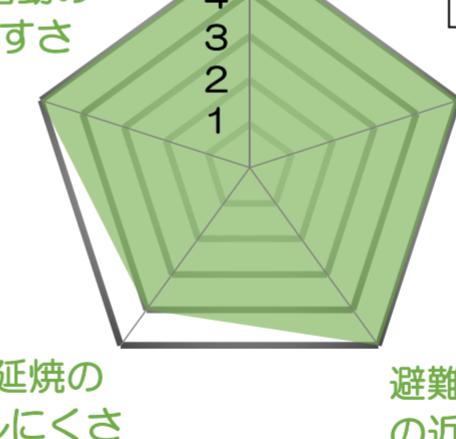
まちの安全性

地域の防災力

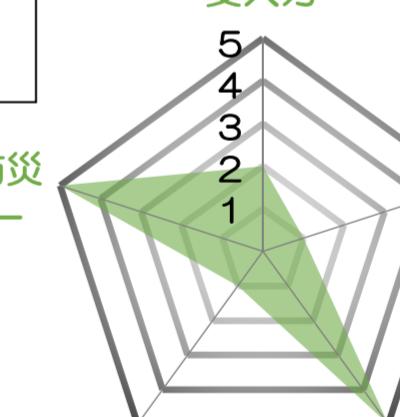
避難経路



消防活動のしやすさ



避難所の受入力



避難場所の受入力

◆評価

幸小学校区は、地震災害については、全域で震度6強の揺れが予測され、液状化の危険性、東京湾に面していることから津波の危険性が高い傾向にあります。風水害については、江戸川氾濫による浸水の危険性が高く、東京湾に面していることから高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、評価項目について総じて高い傾向にあります。また、地域の防災力については、防災組織力、未来の防災リーダーは高い傾向にあるものの、避難所の受入力、避難場所の受入力、防災活動力は低い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
幸小学校	-		
幸公民館	○		

◆避難場所

名称
幸小学校
行徳南部公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	なし		医療救護所	行徳総合病院前
			関連施設	なし



(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震災害（被害を受ける割合）

	想定項目	幸小学校区	市川市全体
建物被害	全壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	2.7%	4.8%
	半壊棟数の割合（揺れ・液状化・急傾斜地崩壊）	11.8%	11.8%
	焼失棟数の割合	2.7%	10.2%
	浸水棟数（津波）の割合	0.6%	1.1%
人的被害	死者の割合	0.0%	0.1%
	負傷者の割合	0.2%	0.4%
	避難者の割合	15.6%	20.0%



◆風水害（被害を受ける割合）

	想定項目	幸小学校区	市川市全体
建物被害	浸水棟数（江戸川）の割合	96.7%	52.9%
	浸水棟数（真間川）の割合	0.0%	47.7%
	浸水棟数（内水）の割合	51.7%	57.9%
	浸水棟数（高潮）の割合	100.0%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合が高く、非木造建物がやや多いことから、建物被害は少ない傾向となっています。また、人的被害については、市全体より負傷者は少なく、死者や避難者もやや少なくなっています。

一方で、風水害については、高潮の浸水、江戸川の氾濫による影響が大きく、市全体と比較して高潮、江戸川の氾濫による浸水棟数は多くなっています。

(7) 防災上の課題

市川市防災カルテ <

幸小学校区

>

項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測され、液状化の危険性が高く、海岸沿いに津波による浸水の危険性があることから、耐震対策やライフライン途絶に備えた家庭での備蓄対策、津波避難対策が重要です。
風水害	南側に東京湾が面していることから、高潮による浸水被害の恐れがあり、河川氾濫による浸水被害、内水氾濫の恐れもあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区的まちの安全性に関する評価項目は総じて高い傾向を示しているものの、初期消火対策等を行うことが重要です。
地域の防災力	地区には、避難所の充足度が低いことから、災害発生時は避難所が混雑する可能性があり、在宅避難ができるよう自宅の備えを整えることが重要です。また、避難場所の充足度が低いことから、他の避難場所や広域避難場所の確認が重要です。さらに、防災活動力が低いことから、災害発生時に即座に対応できるよう、初期対応や応急復旧活動に対する対策を行うことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

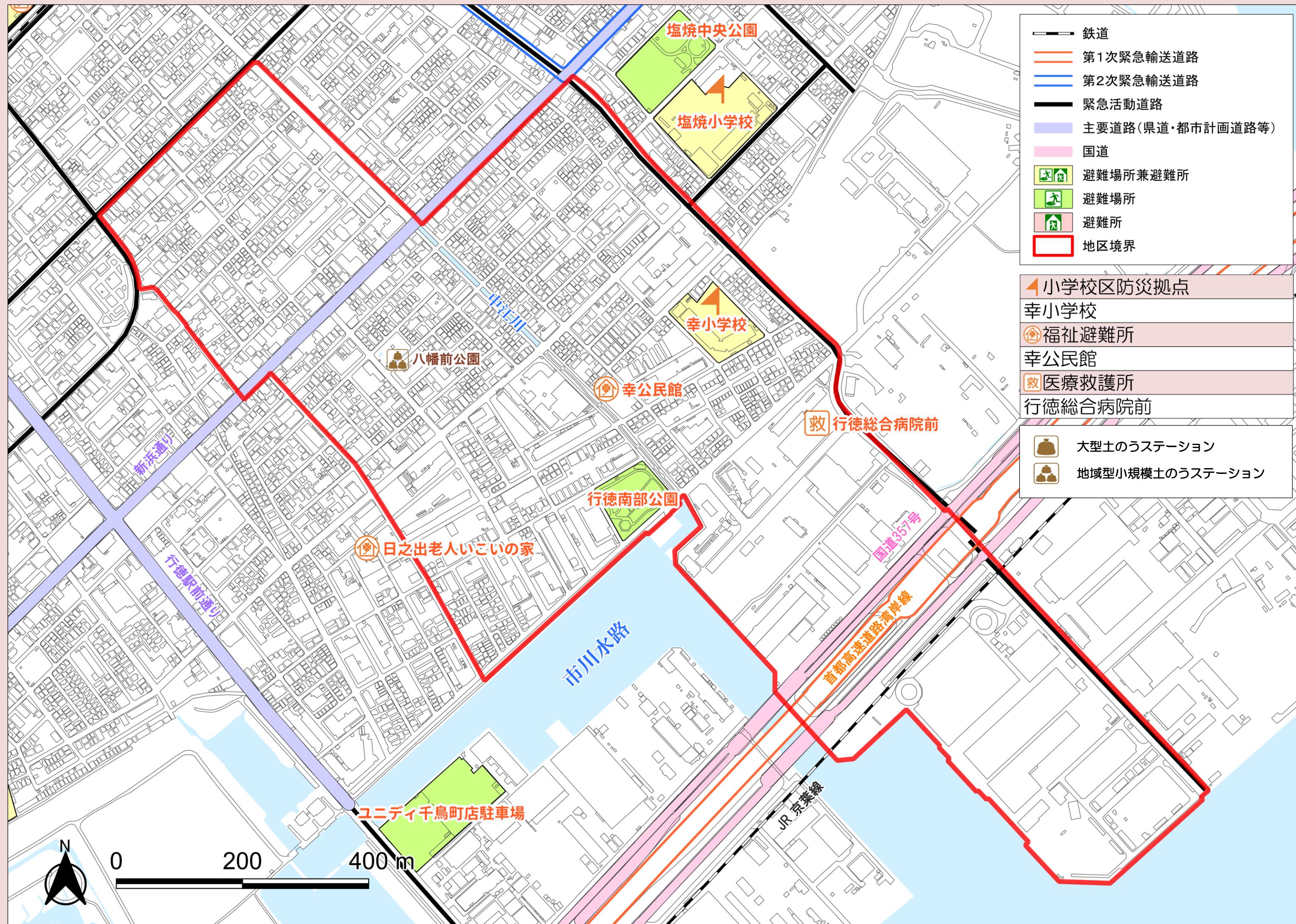
項目	取組の方向性
地域の取組	災害時に負傷者や火災が発生した場合、即座に応急手当や初期消火ができるように、高い防災組織力を活かし、地域で初期対応の訓練を実施するなどの対策が効果的です。 地区内の避難場所の受入力が低いため、近隣地区も含め避難場所を確認し、あらかじめ地区の中で避難する場所の情報共有を行うことが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、家具の固定、ライフラインの途絶に備えあらかじめ飲料水等の備蓄をしておくなど自宅（家庭）の防災性を向上させることができます。 一方、風水害に対する備えとしては、市の助成制度である「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるよう、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。

(9) 防災マップ

市川市防災カルテ <

幸小校区

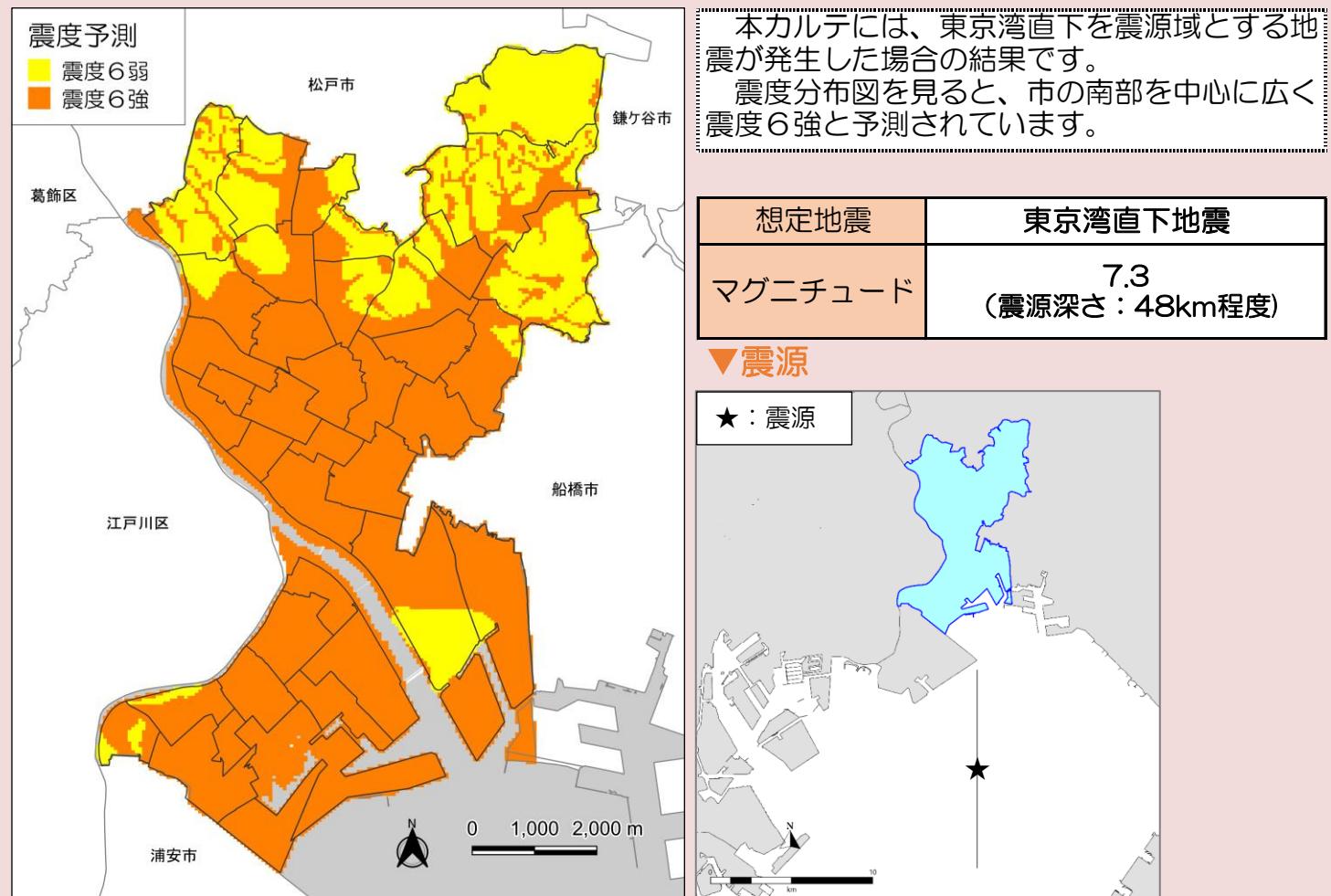
>



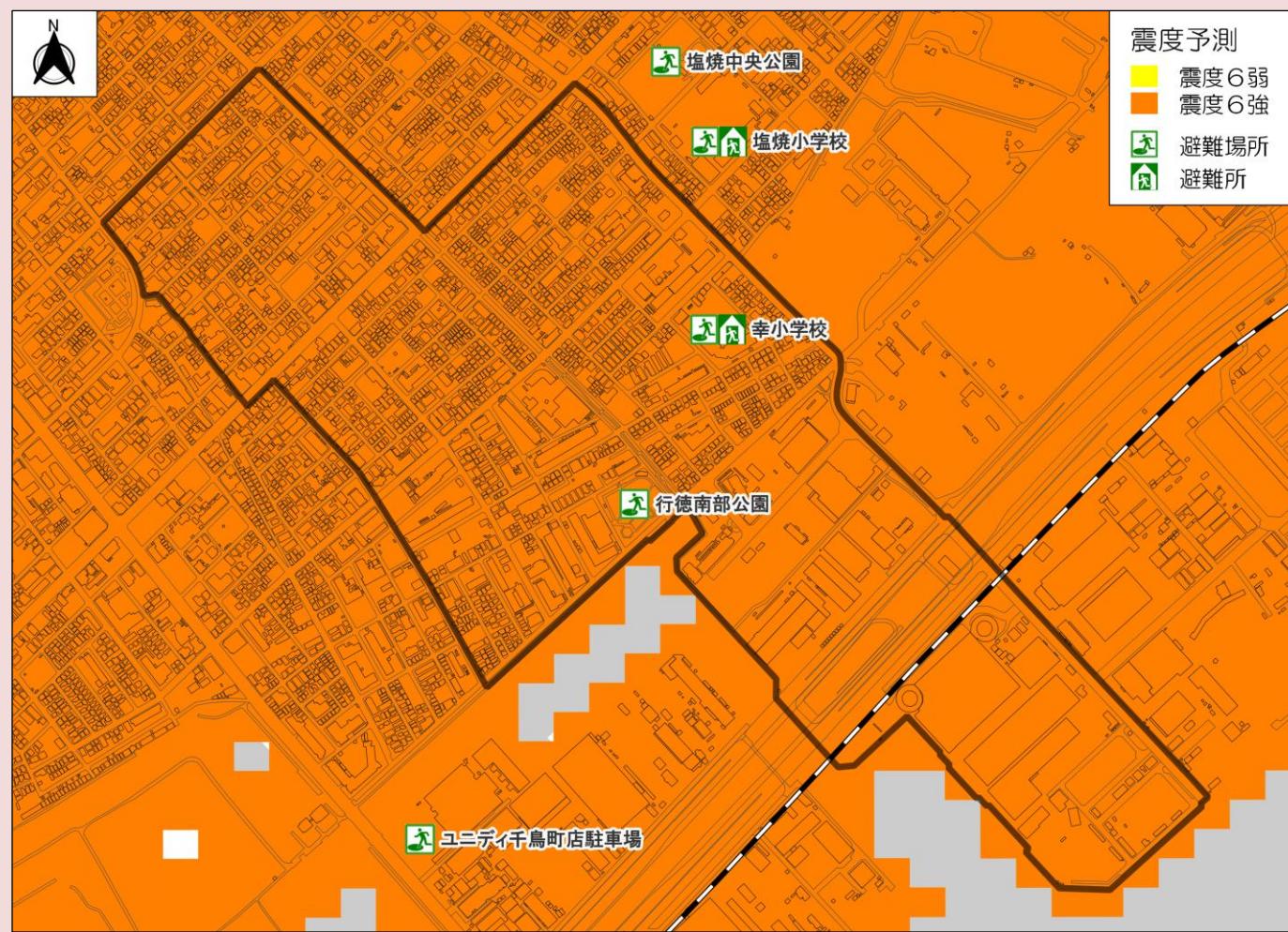
(10) 基礎資料

市川市防災カルテ < 幸小学校区 >

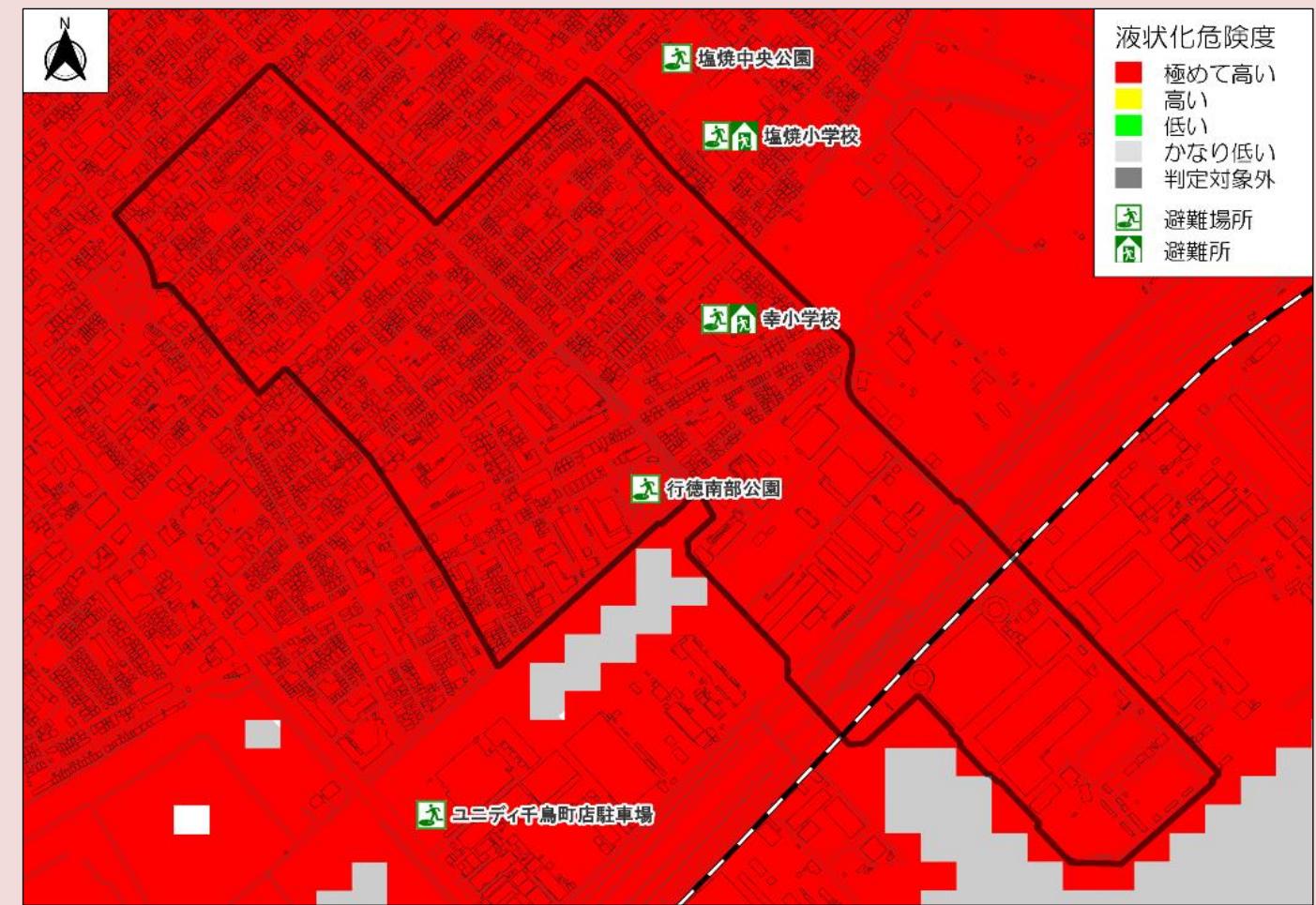
①市全域の震度分布図



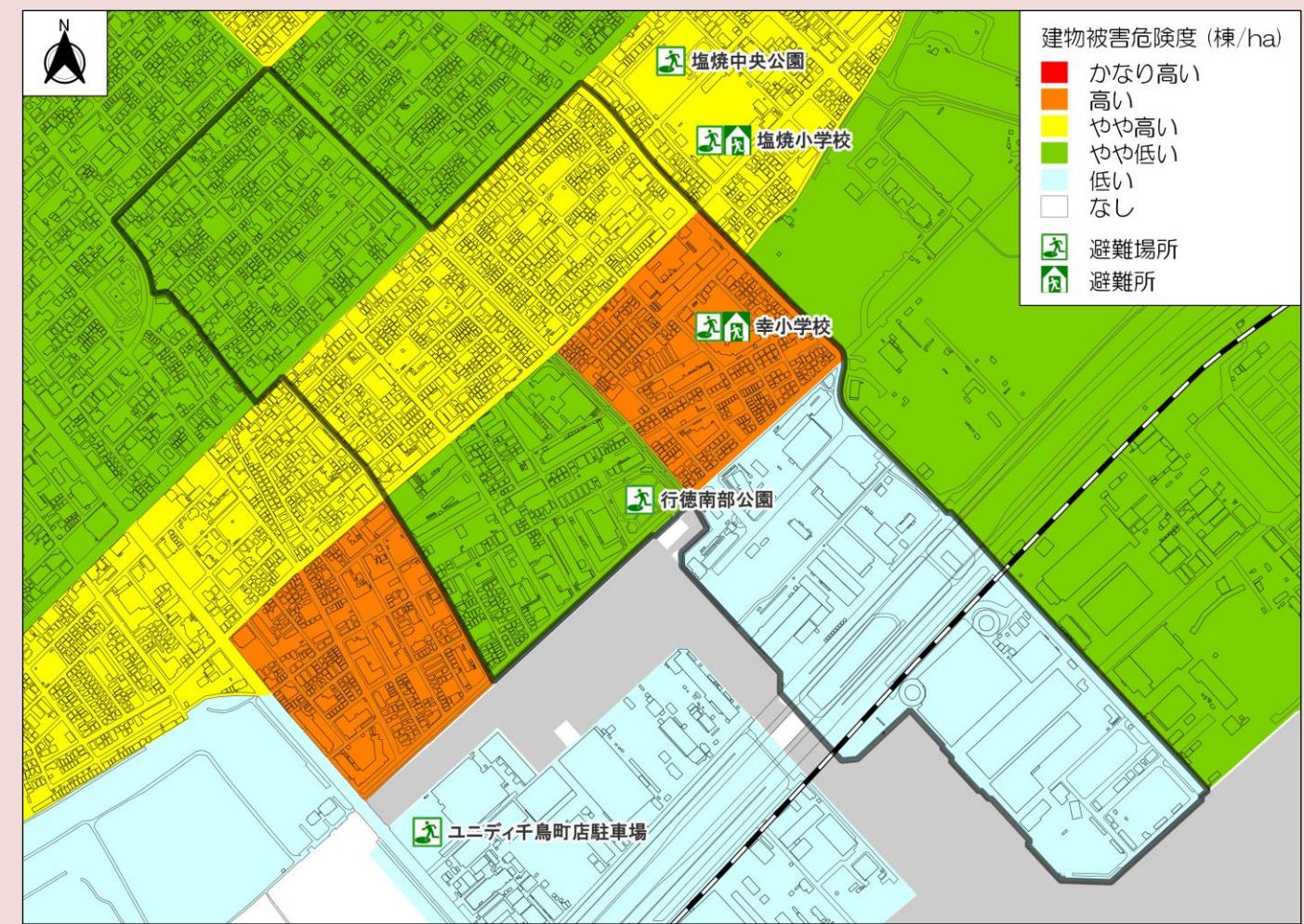
②震度分布図



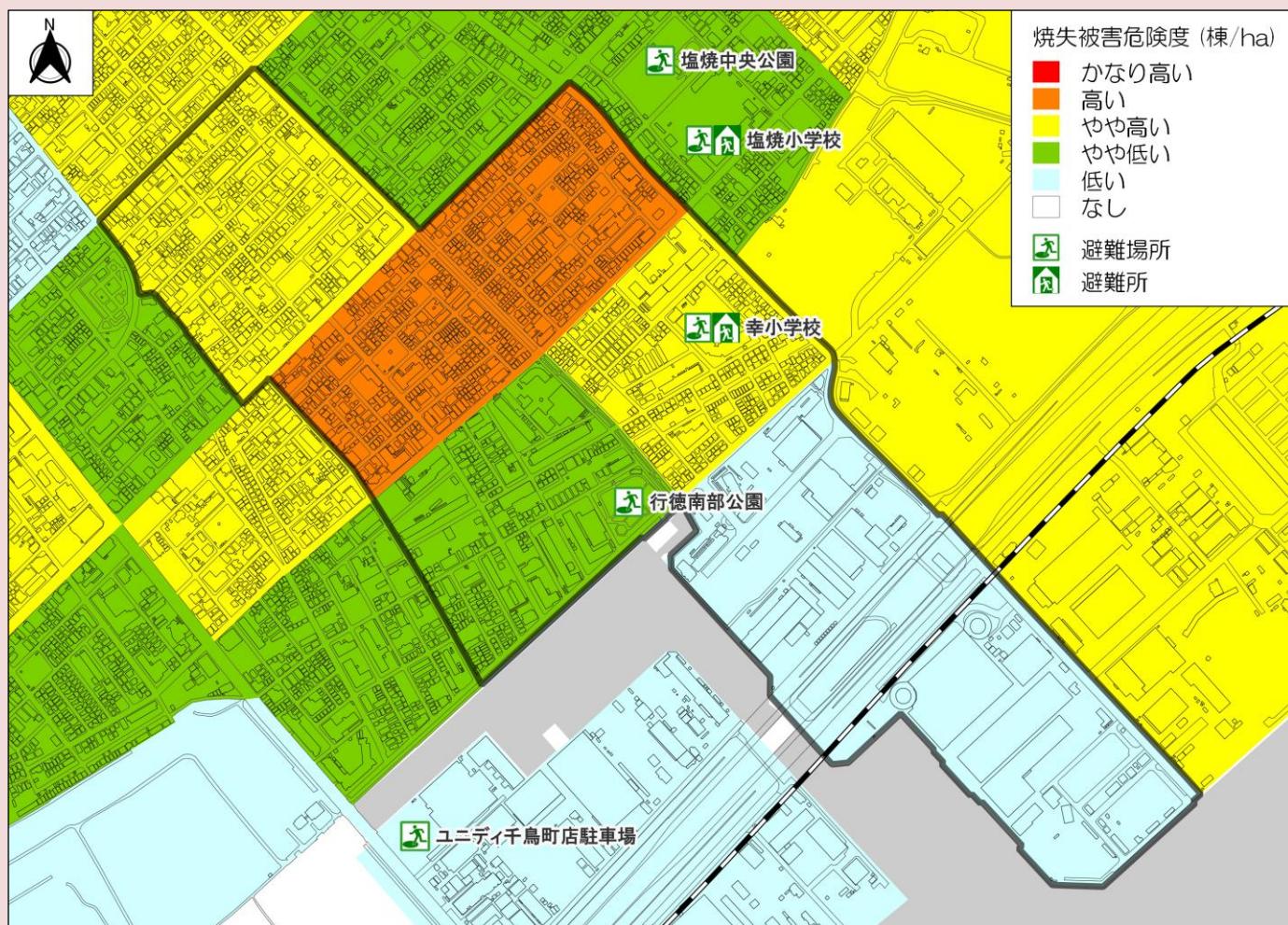
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。

水の深さ

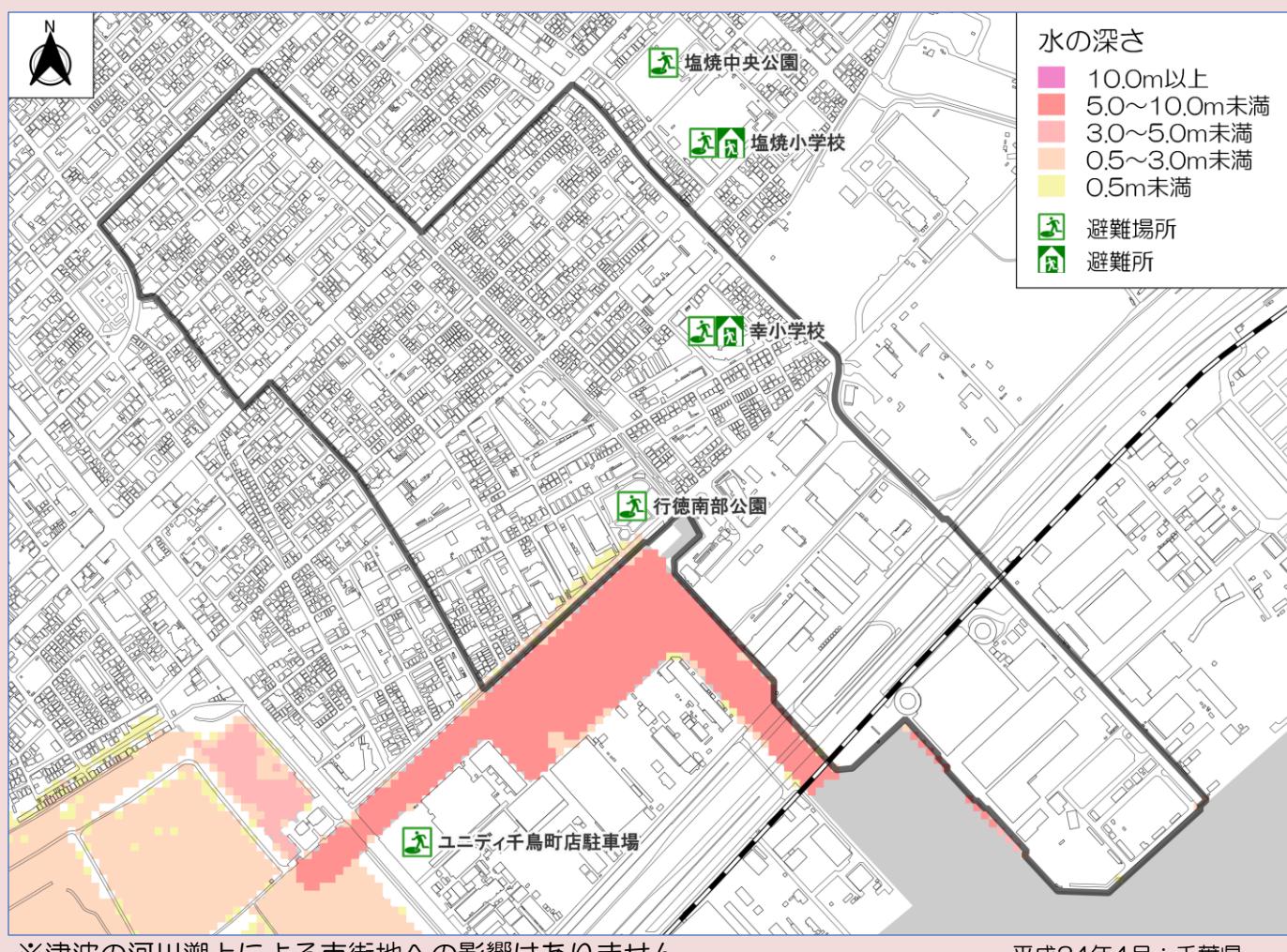
- 水の深さが5.0m以上
- 水の深さが3.0～5.0m未満
- 水の深さが0.5～3.0m未満
- 水の深さが0.5m未満

浸水の目安



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

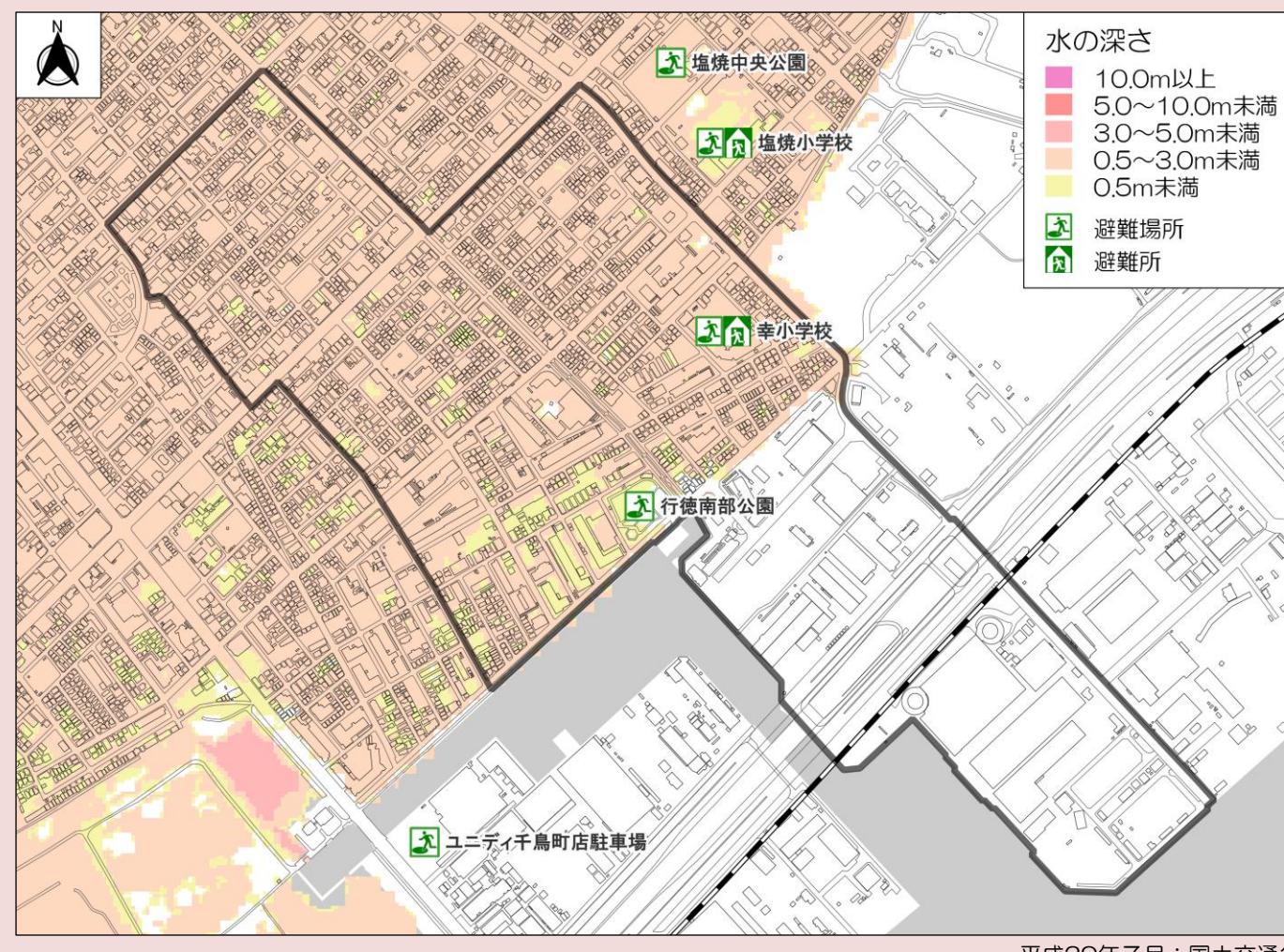
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

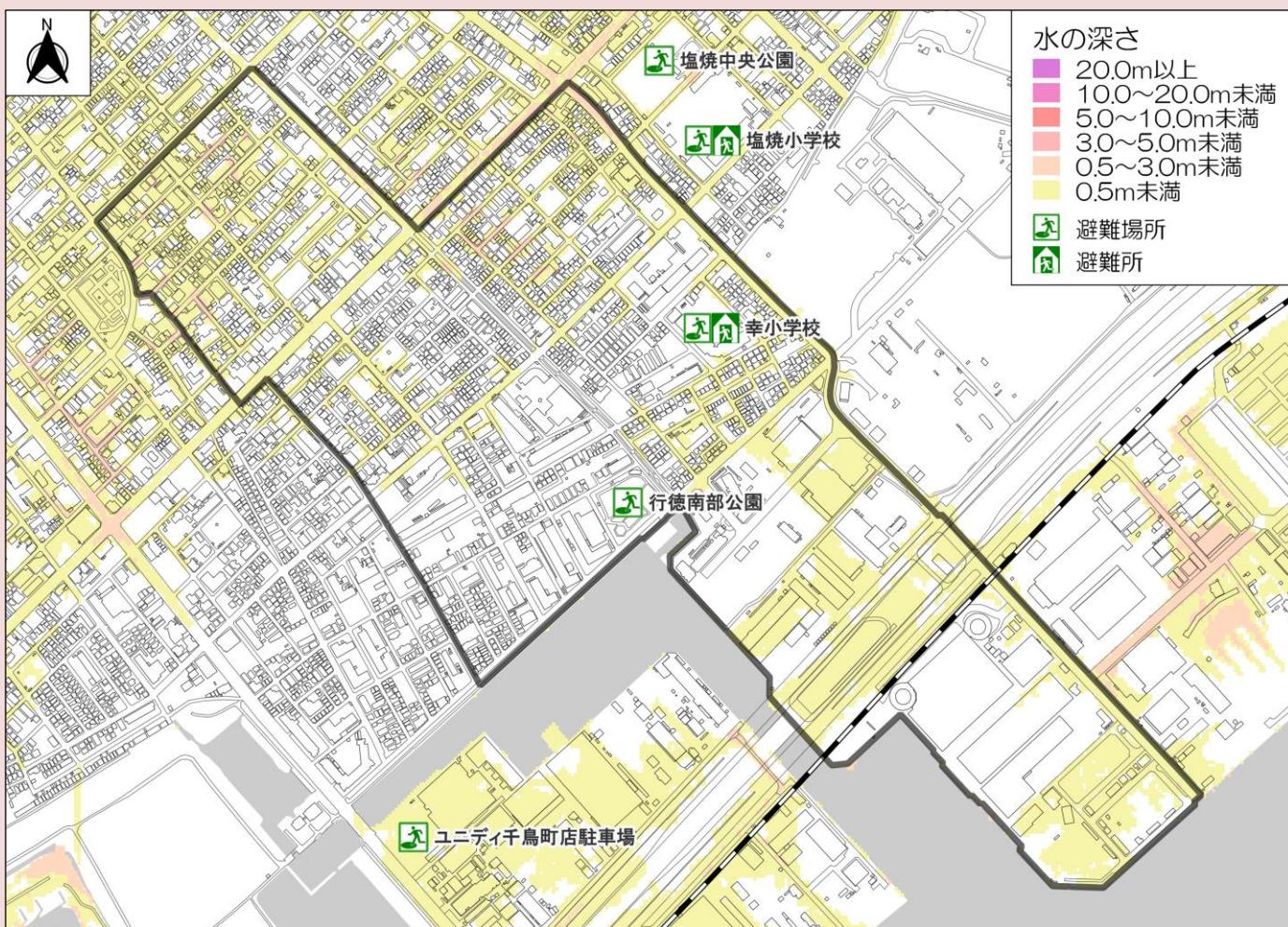
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）



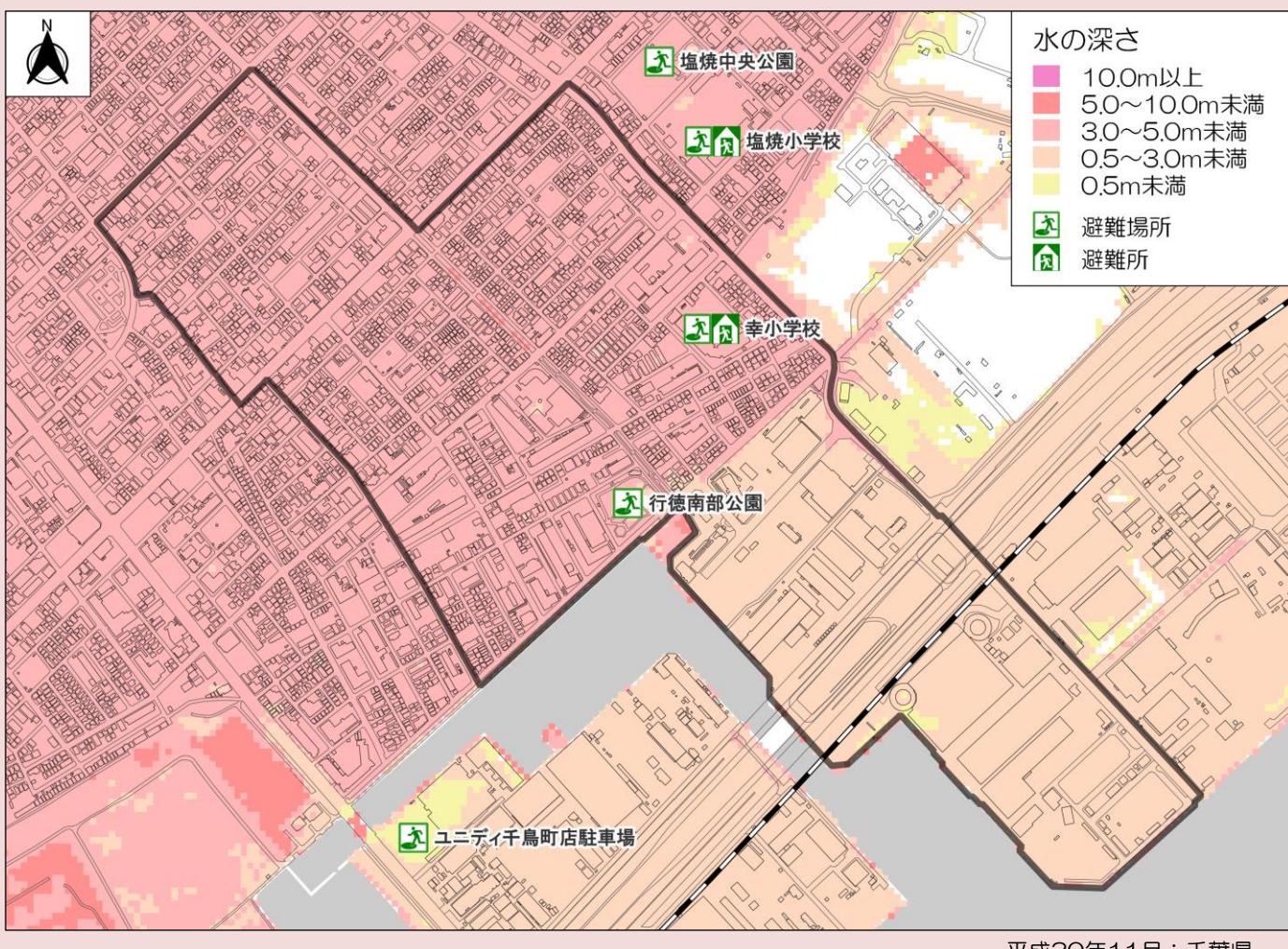
平成29年7月：国土交通省

⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県

